

上を図ることができた。
これまでの理科の授業実践から、児童は提示された事象から共通課題を設定し、自ら解決方法を工夫して主体的に取り組めるようになり、課題解決活動に対する学習意欲・態度・能力の向上

- (3) 児童の発想や個性が發揮される学
- (2) 学習意欲を高め、科学的な考え方を身に付けるために、「書く」活動を指導すれば、主題に迫ることがでできるであろう。
- (1) 自然を探究する過程で、問題を解決する喜びや楽しさを感じ、自然を愛し、命を尊ぶ心を得た児童。

- (4) 研究主題に迫るために、次の五つの研究対策を設定した。
- (3) 子供たちが自ら問題意識を持てるように、導入時の事象提示を工夫して授業を開拓すれば、主題に迫ることがでできるであろう。
- (2) 観察や実験から得られた情報を科学的に処理・分析できる児童
- (1) 自然事象から問題をとらえ、事實に即して、筋道を立てて考える力を身につけた児童

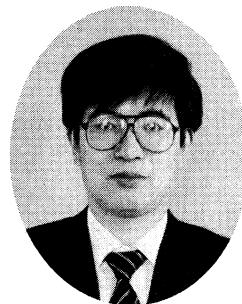
- (4) 思考活動や解決活動に自ら進んで取り組む児童
- (3) 思考活動や解決活動に自ら進んで取り組む児童
- (2) 観察や実験から得られた情報を科学的に処理・分析できる児童
- (1) 自然事象から問題をとらえ、事實に即して、筋道を立てて考える力を身につけた児童

特選入賞論文

自然事象の中から問題を見つけ、自ら解決でき、理科学習の楽しさがわかる児童を育てるにはどうしたらよいか。

郡山市立大島小学校教諭

長 島 健 司



しかし、解決活動に重点を置き過ぎた授業展開になってしまい、予想やまとめての思考活動では、思いつきや、考えのあいまいな結果の処理・分析が多く、事実に即して考えたり、判断したり、推論したりする力が身に付いていないという課題が残った。

そこで本研究では、主題に迫る児童像として次の四点を掲げ、研究の視点として五つの対策を設定して取り組んだ。

主題に迫る児童像

(1) 単元を通して基本的指導過程
以下、これらの研究対策の具体的な方法及び内容について述べる。

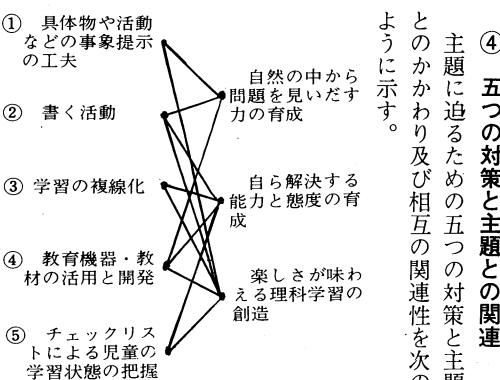
(2) 実践した単元の流れ
(左・上段表参照)

(3) 実践した単元の流れ
(左・下段表参照)

(4) 単元を通じた基本的指導過程
児童の学習意欲を高め、理解を深めるために、教育機器を活用したり教材を開発したりすれば、主題に迫ることができるであろう。

(5) (1)～(4)の対策の効果をとらえ、児童の学習状態を把握するために、形成的評価を行い、チェックリストを作成して事後指導を行えば、主題に迫ることができるであろう。

事 後	本 時	事 前
指 導 内 容		
○ 事後テストの実施	① 事象提示の工夫 ○ 問題をつかむ活動の提案	① 指導計画の立案
○ 学習状態の把握提案	② ○ 考えの文章化 ○ フィードバックの判断	② 事前テストの実施
○ フィードバックの判断	③ 学習のまとめ ○ 個性・能力差に応じた解決方法の立案	③ チェックリストの作成
○ 学習のまとめ	④ 形成的評価の実施	④ 単元に対する児童の学習意欲と学習内容の期待度の把握
○ 理科レポートの提出		⑤ 教材の開発と準備



1. 課題把握	2. 課題解決	3. まとめ
① 提示された事象や活動からの問題把握	① 書く活動による解決方法の発表	① 書く活動による文章化・図式化・イメージ化を図った考察
② 共通課題の設定	② 学習の複線化による解決活動の展開	② 形成的評価の実施
③ 書く活動による予想	③ 学習形態を工夫した情報分析・結果の処理	
④ 予想の共通化		

めだかの成長 (5月から継続飼育・観察を行う)

たねの発芽と成長 (4月から6月)	植物の成長 (6月から7月)	星 (7月から9月)
-------------------	----------------	------------